# 遊園華人

対外報告活動 資生堂美容講座実施 2012東京中国文化祭 中華人民共和国建国六十三周年・ 中日国交正常化四十周年祝賀レセプション 日中友好神奈川婦人連絡会第38回総会

撮影勉強會 遠足のご案内 不可以碰我的门 国际人

中国字真厉害 駐日中国大使 程永華氏の書面インタビュー全文 今年日中領土紛争経緯

No. 30

#### 資生堂美容講座実施

7月27日午後、当会は資生堂のお化粧の楽しさを体験するため、 新宿区戸塚地域センターにて、美容講座を実施されました。

当会の会員20名弱に対し、資生堂の美容師9名と担当者山本様がいらっしゃいました。2時間の間に、資生堂の化粧品をつかい、スキンケア、肌診断、メークまで慣れた手付きで、丁寧に指導してくださいました。

会員の皆さんは、とても綺麗にお化粧ができるようになり、その楽しさも倍味わうことができました。また美容師の皆さんは、とても親切で丁寧に教えてくださったので、大好評でした。本当に忘れなれない一日でした。

このような機会があれば是非また続けたいと皆さんは口を揃えて言いました。 資生堂の皆さん本当にありがとうございました。



#### 2012東京中国文化祭

2012「東京中国文化祭」は、9月7日から9日まで、東京プリンス 芝公園ザ・プリンスパークタワー東京で開催されました。

首日,中国驻日本大使程永华,日本前首相鸠山由纪夫,外 务副大臣山口壮,日本经团联会长米仓弘昌,日中友好协会会长 加藤弘一及新老华侨的代表,日本政界、经济界、文化界代表300 多名人土出席了开幕式。

此次文化节,正值中日友好邦交正常化40周年。通过此次活动,可以更进一步弘扬中国文化,加深中日民间的草根交流以增进两国人民的相互了解。

3日間の日程で、中国伝統料理、民族舞踊、楽器演奏、武術 実演、伝統工芸、太極拳、映画紹介、漢方医学講座、京劇衣装体験、書道実演など様々なイベントが催された。在日華僑・華人と中国企業が主催し、在日本中国大使館が協賛。在日華僑・華人と中国企業が東京で開催する初の大型総合文化イベントだった。

当会は李藝、姜春姫がボランティア活動に参加しました。



## 中華人民共和国建国六十三周年・中日国交正常化四十周年祝賀レセプション

中華人民共和国建国六十三周年・中日国交正常化四十周年祝賀レセプションが、九月二十五日 夕方、ホテルニューオータニで開催されました。当日は日本各界の人士や外国の使節、日本在住 の華僑や企業家、留学生など1500人あまりが出席されました。

程永華駐日大使は祝辞をなさい、中国が成立してから63年間、特に改革開放から30年間の成果を振り返り、「中国は世界平和を守り、共同発展という外交政策を促進し、平和的発展の道を歩み、互恵の開放戦略を堅持し、各国とともに平和と繁栄の世界を作り上げていきたい」と述べました。

また中日関係について「これまでの40年、両国関係は実り豊かな成果を挙げている。しかし、現在の釣魚島問題や日本政府の島購入がもたらした深刻な影響を大変懸念している。日本政府が中日間の4つの政治文書の原則と双方が達した共通認識に従い、中国と向き合って、両国の平和、友好と協力をともに維持していくよう期待している」と述べました。

当会は会長1名が祝賀レセプションに参加しました。

原稿提供: 姜春姫

#### 日中友好神奈川婦人連絡会第38回総会

10月6日(土)午後、神奈川県民センターで、日中友好神奈川県婦人連絡会第38回総会が開かれました。参加者は49名で、当会は姜春姫が参加しました。

照井 敏子副会長が司会をし、まずは若林 昌会長が挨拶をなさいました。若林会長は挨拶の中で、前日NHK放映の「日韓交流のお祭りでゆれた新大久保の1ヶ月」をみたご感想を述べました。

これは韓国とのことですが、日本で暮ら韓国人の人々が日韓の間の難しい問題のあるなかで、 勇気をもって祭りをもよおしたいきさきのニュースですが、皆さんはいろいろと悩んだ末に、地 元の町内会の会長や、韓国の食品販売会社の人々も参加し、祭りを行いました。途中で韓国との 交流を反対するデモもやってきたのですが、日本と韓国の人々が、普段の力強い絆を頼りにし、 いろいろと智恵を出しあい、無事祭りを終え、みんなで楽しんだそうです。

日中間でもこのようなときこそ、お互いに膝つき合わせ意見を述べ合い、困難を乗り越えてゆくべきではないかとし、本日の凌星光先生をお迎えして、日中の平和についてお話を頂くことになっていますので、どうぞ皆さんで真剣にどうしたらよいか考えましょうと述べました。総会が無事終わってからは、凌星光先生が「中国の行方と日中の平和」について講演をなさいました。

この度は、中日民間交流、両国人々の絆の大切さを改めて実感いたしました。当会も中日交流 を深めていくことを目標にしていますので、こういうときこそ、両国民の交流をもっとすべきで はないかと大変勉強になりました。

原稿提供: 姜春姫

講師:土肥哲英先生

時 間:11月10日(土) 17:30~21:00

場所:戸塚地域センター

(東京都新宿区高田馬場2丁目18番1号) 料 金: 会員無料、非会員は500円/人

交 通: JR山手線·地下鉄東西線·西武新宿線「高田馬場駅」下車徒歩3分

詳しくは下記のURLにご参照して下さい。

http://www.to1.bz-office.net/

受付時間: 17:20 開始時間: 17:30

持ち物:カメラ、筆記用具等。

申込は、acwj03@hotmail.com メールにてお願いします。

申込締め切りは11月2日まで。

担当者:徐寧:090-1464-6773 李軍:080-5542-2712

集合時間:2011/11/23日(金曜日、勤労感謝日) 10:30(時間厳守)

解散時間:15:30(予定)

集合場所:森林公園(東武東上線「森林公園駅」下車、駅から森林公園までバス利用可)

紅葉の時期、混み合っていると思いますので、朝の出発はお早めに!

森林公園の詳細情報は下記のURLにご参照

http://www.shinrin-koen.go.jp/index.html

持 ち 物: 敷物、ウエットティッシュ、折畳傘、タオル、歩きやすい靴、ゴミ袋、帽子、カメラ等。 お弁当と飲み物は、個々ご用意下さい。(園内にはレストランもある)

申込は、acwj03@hotmail.comメールにてお願いします。

(氏名、人数、電話を明記)

担当者:徐寧:090-1464-6773 李軍:080-5542-2712(当日緊急連絡先)

)遠足のご案内

影

勉

強

女儿今年上高一了。老妈的更年期跟她的青春期,每天的碰撞可谓惊天动地,泪水涟涟,抽不尽的丝,理不尽的缕。前两天偶尔翻开她的影集,看到曾经她的可爱,天使般的小脸,突然觉得每天跟她解不开的结,只不过是我们母女一场中的一个小小的瞬间。想想自己曾几何时跟母亲的反抗,到现在都已成了一种笑谈。

亲爱的妈妈们,我们的孩子都曾经"天使过", 在想要放弃他们的时候,让我们带着回忆与他们同行 吧。相信现在的他们,随着时间一点一点地滑过,也 会变成今天的我们。

以前给女儿写过一 篇小文,现在读起来依 然是津津有味。拿出来 与大家共享。

小女已经六岁了, 有一个可爱的中国名字 叫丫丫。丫长得乖巧 可人,白白细细的皮肤, 女孩子气十足,人见人 爱。她是姥姥、姥爷 "小香香",,隔壁 的"人参果",隔壁周 爷爷的"日本娃娃"。 凡到一处,总会让人产 生说不出的怜爱。

就是这个小女孩, 从日本回到中国已近半 年了,当上了小小的留 学生,当然她的汉语已 号生,当然她的不不 要"字到不要、想要已 我要、我想要、就要 我偏不要,弄得你哭" 我偏不要,弄得你哭"叫 作"葫芦糖",把"请坐"

联想地叫作"屁股坐"。有时她也形容一下什么人,像某一天她碰到了一个戴眼镜的很像老舅的人,她就把白白的小手指头圈成两个圈儿,往眼睛上一放,说;"我、我、见了碰,眼镜、眼镜戴的,老舅像。"。有的时候她坐在那儿若有所思,突然间地会冒出一句"TMD",让你惊得目瞪口呆。偶尔她也会有神来之笔,让你忍俊不禁,跌破眼镜。有一次学钢琴回来的路上,她要喝酸奶。我冲着路边小亭里的大姐喊了声"对不起,我要两瓶酸奶。"怎奈对方大姐疲惫在际,微有鼾意。刚要停片刻再喊,只听我家小女:"同志(自),来两瓶酸奶~"哎呀,这不是俺那嘎达正宗的沈阳话吗?

从日本留学回来的小弟夫妻与父母同住,虽已老大 不小,却不思生儿育女。但对丫丫却疼爱有加,胜于 已出。夫妻俩鱼贯穿梭,左啃右抱。尤其是小弟,抓住一切可以出击的机会,左摸一把,右亲一下,直把孩子弄得吱里哇啦,如杀鸡宰羊。惹得老爸老妈心烦意乱,大声喝道"你不惹她,行不行?"小弟这才灰溜溜而去。但她对老舅妈那可是爱之又爱,孝顺至极。小弟时常感到失落、嫉妒、痛苦。为了挽救他的失落感,他自寻出路,经常是趁丫丫入睡后,醒来前,偷偷摸摸地溜进丫丫的房间。然后尽情地亲亲这儿,摸摸那儿,那样子恨不能把丫丫生生吞进肚子里。

丫丫现在的中文已"水涨船高",面对老舅的示爱 方式,她终于拿起了笔。只见她这屋写到那屋,放下 这支笔拿起那支笔,勾勾抹抹,不声不响。到了睡觉

前,只见她的门上出现了一张花花绿绿的"告示",如下:

不可以碰我的门 你碰了我的门我问你 你是怎么碰的这个门的

> 丫丫 000000 6发(岁)

第一个发现的当然是 我这个妈, 乐得我"热泪 盈眶"。紧接着是山东出 身带有辽南口音的姥姥复 唱了一遍, 喜得赞不绝口 "好!写得好!"接下来 是慈眉善目,凡事都喜欢 研究研究的姥爷。背着手 的姥爷那一口纯正的南方 口音,慢条斯理,闭上眼 睛, 仿佛时光倒流, 犹如 哪一家私塾学堂里的老学 究的经文。还没等姥爷念 完,我已经笑得直不起腰 来了, 只听姥爷最后还紧 跟着问了一句"她写的是

什么意思奈(呢)?"老舅妈跑过来看完了以后,笑得扔胳膊扔腿,没了人样。老舅走过来,看了又看,抿着嘴嘿嘿地直笑,然后,抬起腿冲着门轻轻地踢起来, "我就碰你的门,我就碰你的门。"

姥姥把老舅拽到一边,"你说,她这是写给谁的?" 老舅抓着头发,干巴拉瞎地说:"那还用问?我!" 事后经过我详细的听证,理解之后,是:

> 老舅你不可以随便开我的门 你要是想开我的门的话 我问你, 为啥要开我的门呀?

那六个圆圈是什么意思??唉,那是给老舅的六个 豝豝橛儿!



国际人这个词是在孩子小学的时候,从一位日本同学的妈妈那里听到的,当时她说你是国际人,我当时不能理解,国际人是怎么定义的呢,我是中国人,来到日本就变成了国际人了……

孩子6岁来到日本、直接进入市立小学、初高中都在私立就读、现在已经上大学了。接受的 是日本式教育,但是作为一名中国人的家长,总觉得还孩子要多知道一些中国历史,文化和风俗 习惯。最好还要到英语是母语的国家去锻炼一下,将来能成为一名所谓的国际人。为了让孩子们 了解中国,除了假期回国探望爷爷奶奶,最好是让她有一个人在中国生活的经历。于是我们选择 了中国新东方学校。新东方学校在全国各地都有分校,我们决定去了北京新东方学校。一是听说 北京新东方的教学质量高。二是因为北京没有亲属、她必须住宿、这样和中国大学生可以有一些 交流。三是因为北京是历史文化中心。大家都知道新东方是一所英语培训学校。有春季,暑假, 秋季和寒假班。根据水平分基楚强化,精讲精练,全真模考,全程和单项班。还根据跟个人需要 有听力,口语,阅读和写作等单项班。此外新东方学校还为留学开设了托福,雅思等。现在除了 英语以外,还有德语、法语、韩语和意大利语等。真是应有尽有。今年利用春假20天,她参加了 新东方学校学习,上下午授课,星期天休息。在那里认识了很多中国的大学生和高中生。大家除 了一起学习,生活以外,还利用星期天去爬山,游览世界遗产。亲身感受到中国同龄人的所思所 想和中国的历史文化。我想这对她或多或少有一些影响。学校里的住宿条件比较不好,但她还是 自己想办法克服了困难,她自己因此感到很自豪。没去之前她有很多担心,比如老师用中文讲课 听不懂怎么办,自己不会写中文怎么办,我认为这些担心是好事,那是因为她认识到了自己还有 哪些不足之处。在新东方学校她既学习了英语、又练习了汉语、一举两得。

NHK电视台组织的一场关于"国際人"がニッポンを救う的讨论,参加讨论的有专家,活跃在国际性公司的社会人,还有在校大学生。从讨论中我们知道社会需要国际性人才,那么我们作为家长怎样才能把孩子们培养成有英语能力,专业知识,管理能力等等的国际人呢,这也许是我们永久的话题。

转载 **看一看: 笑一笑**-

### 中国字真厉害

北京,就是背景。

上海, 就是商海。

欲望, 就是渔网。

老公,就是劳工。

云雨,就是孕育。

升职,便是升值。

誓言,就是失言。

男人,就是难人。

理想,就是离乡。

缘分,就是怨愤。

清醒,就是庆幸。

结婚,就是皆昏。

研究研究就是烟酒烟酒。

知道高考为什么要改在

6月7、8号吗?

意思是: 录取吧。

问: 为什么中国射击成绩好?

答:因为大家习惯睁只眼闭只眼;

问: 为什么中国举重成绩好?

答:因为国人承受着生命不能承受之重:

问: 为什么游泳能拿金牌?

答:因为首都到处是泳池,游不好要命的;

问: 为什么中国跳水队一直都很出色?

答:因为国人大多数是股民;

问: 为什么中国乒乓球队一直都很出色?

答:因为全中国人民都擅长打擦边球。

#### 駐日中国大使 程永華氏の書面インタビュー全文

毎日新聞 2012年09月17日 00時55分(最終更新 09月17日 01時53分)

一 今年は日中国交正常化40周年ですが、現在、両 国関係は厳しい状況に直面し、日本の多くの人が憂慮 を表明しています。中国側は両国関係の現状をどのよう に認識していますか。

大使 日本政府が「釣魚島購入」を発表した後、中日関係は非常に厳しい情勢に直面している。これは中日両国民の利益に合致せず、中国が目にしたくないもので、事態悪化の責任は中国側にはない。

今年は中日国交正常化40周年だ。両国にとってのこの40年間の中日友好協力発展の重要な意義を深く感じている。40年前の中日が国交正常化を実現した時、2国間の貿易額は10億ドルにすぎず、人の行き来もわずか1万人だった。40年間の両国政府と各界の関係者の不断の努力で、両国関係は各分野で大きく発展し、これまでにないレベルに達した。政治面で、双方は両国が平和、友好、協力関係を発展させる基本原則と精神を確立し、戦略的互恵関係の大方向を明確にした。経済面では、2国間の貿易額が3400億ドル余りに達し、約340倍に増えた。中日は互いに重要な経済・貿易のパートナーとなり、中国は日本にとって最大の輸出市場となっている。

人文(人と文化)交流の面では、両国の人の行き来が500万人余りに達し、友好省・県と友好都市は250組に上っている。毎日100便近く運航される航空便で約1万8000人が両国の間を行き来している。中日関係の発展は両国に大きな利益をもたらし、両国人民に巨大な実益をもたらし、さらに地域の平和、安定、繁栄を力強く維持し、促している。

中日国交正常化40周年を迎え、中国側はこの重要な年を両国関係において先人の後を引き継いで今後の道を開く1年にすることをもともと希望していた。中国は日本側と多くの計画を立て、「中日国民交流友好年」のイベントを開催することを決定し、また600近い交流・協力の催しを計画していた。

人民元と日本円の直接取引の実現は両国の金融協力が実質的に重要な一歩を踏み出したことを示している。両国はまたオープンスカイ(航空自由化)協定に調印し、双方の人の行き来を拡大する条件を整えた。第7回中日省エネ・環境保護フォーラムが成功を収め、双方は47件の協力取り決めに調印した。中日韓3カ国は投資協定に調印し、3カ国の自由貿易協定交渉を年内に始めることを予定している。今年、中日の各分野の交流と協力の成果は少なくないと言うべきだ。

両国各界が中日の協力がより大きく発展するよう広く 期待している時に、日本側は中国側の立場と中国人民 の感情を顧みず、釣魚島の主権について係争の客観的 事実を無視し、いわゆる「島購入」計画を進め、先ごろ、 計画が完了したと宣言し、中日間の深刻な対立を引き 起こし、事態の重大なエスカレートを招いた。日本側は 現在、中日関係が直面している厳しい局面を認識し、国 交正常化と条約締結時の両国の合意と了解に早期に立 ち返り、釣魚島問題を適切に処理すべきだ。 ― 日本政府は、「島購入」は平穏かつ安定的に管理し、 東京都の島購入を阻止するためで、両国の対立を進ん であおるものではないと言っていますが、中国側はなぜ 断固反対し、激しく反応するのですか。

大使 釣魚島問題には特殊な歴史的経緯があり、中国の領土主権にかかわるだけでなく、歴史問題にかかわり、非常に敏感なものである。まさにそのために、中日が国交正常化を実現し、平和友好条約を締結した際、両国の指導者は「そのままにし、今後の解決にまつ」ことで重要な了解と合意に達した。長年にわたり、釣魚島問題は時に突出するものの、全体的に言って、双方は関連の了解と合意に基づいて、問題を大体適切に処理してきた。

今年4月中旬、東京都の石原慎太郎知事がほかでもなく米国に行って「島購入」を宣言したことで、人々はみな、それが挑発行為であることが分かった。また募金の形をとることで、矛盾を国民レベルにまで拡大し、両国民の対立を故意にあおろうとたくらんだ。

日本政府はこうしたもめ事を起こす行為に対し、制限 せず、逆にその勢いに乗って強硬に「島購入」をし、中日 関係を重大に損なった。

中国の指導者と外交当局は日本側に繰り返し厳正な立場を表明し、石原知事の「島購入」は無論、日本政府の「島購入」も性格は同じで、いずれも中国の領土主権に対する重大な侵害であり、両国指導者のこれまでの合意に反するものであると強調し、中国は日本側が大局から出発し、いかなる形でも「島購入」をやめることを要求した。

日本側の以上の行動は、中国人民の激しい憤りを引き起こした。中国政府は日本側の中国の領土主権を侵犯する行為に強い反応に出ざるを得なくなった。中国がこのようにするのは、自らの領土主権を守るためであり、また中日関係の大局を守るためでもある。

― 中国側が言っている国交正常化と条約締結時の両国の合意と了解は具体的に何を指しているのですか。

大使 釣魚島問題は今に始まったことではなく、中日双方にそれぞれ主張がある。1972年、中日が国交正常化を実現した際、周恩来首相と田中角栄首相は釣魚島問題について「今後の解決にまつ」ことで合意した。1978年、中日が平和友好条約を締結した際、双方は釣魚島問題について「棚上げし、今後の解決にまつ」ことで了解に達した。

トウ小平氏は当時、「こうした問題はそのままにしておいてかまわない。われわれの世代は知恵が十分でなく、この問題は話がかみ合わない。次の世代はわれわれより聡明(そうめい)だから、みなが受け入れられる良い方法を見つけ、この問題を解決するだろう」とはっきり語った。この合意は中日関係の健全かつ安定した発展の重要な保障と言える。

当時、両国の前の世代の指導者は高度の戦略的視点と政治的知恵で釣魚島問題を適切に処理しなければ、また国交正常化以降のこの長い期間に双方がこうした精神で釣魚島問題を処理しなければ、中日関係のこの40年間の大きな発展はなかった。

現在の事態の根本的原因は日本側が釣魚島問題に 対する立場を後退させ、釣魚島の係争に面と向かおうと せず、認めようとせず、双方の重要な了解と合意を否定 し、あくまでも誤った行動を取ることにある。これは非常 に危険だ。

日本政府のこうした立場は実際のところ、日本国内の一部の者が釣魚島問題を利用して騒ぎを起こし、中日関係を壊すことを奨励し、刺激するものだ。釣魚島問題で「棚上げ」の合意がなくなれば、領土問題のために中日関係は永遠に平穏な日がなくなる恐れがあり、そうなれば、どうして安定や発展を語れるだろうか。

その意味から言って、釣魚島問題を適切に処理し、危機を有効にコントロールするには、突き詰めれば、国交正常化と平和友好条約調印の時の双方の合意と了解に立ち戻り、領土紛争を交渉で解決する軌道に戻らなければならない。

一 中国は、釣魚島は中国固有の領土と主張していますが、日本には、釣魚島付近で石油が見つかったことから中国は日本固有の領土を中国のものであると言い、さらには強硬な手段も辞さないのだと考えている人もいます。これについて中国はどのように見ていますか。

大使 釣魚島およびその付属の島嶼(とうしょ)は古来、中国の神聖な領土で、歴史的証拠も法的根拠もある。釣魚島などの島嶼は中国人が最も早く発見し、命名、利用、管轄したことが大量の文献史料に示されている。

15世紀以前に中国南東沿海部の商人や漁民は釣魚島などを航海の際の目印とし、以来これらの島嶼とその付近の海域で生産活動を行ってきた。中国の明朝と清朝は釣魚島とその付属の島嶼に対してずっと主権を行使していた。早くも明代の初め、釣魚島とその付属の島嶼は中国の版図に入り、永楽年間(西暦1403~1424年)に出版された「順風相送」という書物には、中国人が福建から琉球に行く途中に通った釣魚嶼、赤坎嶼(すなわち赤尾嶼)などの島嶼の名称が明確に記載されている。明、清代に琉球王国に出向いた冊封使はその出使録の中で、釣魚島などの島嶼は中国の領土で、これらの島嶼を通った後、琉球の領域に入ったと明確に指摘している。

日本外務省の「日本外交文書」第18巻、第23巻には、日本政府が釣魚島について「無主地」ではなく、中国に属すと明らかに承知していたことが詳細に記載されている。

1895年、日本は甲午戦争(日清戦争)末期、清朝政府の敗戦が確定的になったすきに、釣魚島とその付属の島嶼を不法にかすめとった。続いて日本は清朝政府に不平等な「馬関条約」(下関条約)の調印を強要し、

「台湾全島およびすべての付属の島嶼」を割譲させた。

第二次世界大戦終結後、「カイロ宣言」と「ポツダム宣言」に基づき、中国は日本が占領した台湾、澎湖(ほうこ)諸島などの領土を取り戻し、釣魚島は台湾の付属島嶼として国際法上、中国に戻った。

1951年、日本が米国などの国と一方的な「サンフランシスコ平和条約」に調印し、琉球諸島(現在の沖縄)は米国の管理の下に引き渡された。1953年、米国琉球民政府は管轄範囲を勝手に拡大し、中国の領土である釣魚島とその付属の島嶼をその中に紛れ込ませた。1971年、日米両国は「沖縄返還協定」の中で釣魚島などの島嶼を勝手に「返還区域」に入れた。

中国政府は日米のこうしたやり方に対し、1950年代から何度も断固反対し、認めないと表明した。日本政府のいわゆる釣魚島は日本固有の領土で、日中間に解決が必要な領土紛争はないという言い方は史実と法理に合致していない。いわゆる釣魚島海域で石油が見つけられて初めて、中国側が領土紛争を主張したという言い方はまったく成り立たないものだ。

一日中関係の悪化がすでに経済分野に影響しています。日本の自動車の中国での販売が減り、日本製品の一部ボイコットや、商務省の担当者がそうした行為に理解を示していると報じられています。そのほか両国間のさまざまな交流活動も影響を受け、次々に延期や取り消しになっています。これについて中国はどのように見ていますか。

大使 中日の協力関係が良好な発展を続けるには、政治、経済、人文など各分野で調和のとれた発展を実現する必要がある。中日経済・貿易協力の深化は良好な政治関係や民意の基盤と切り離せない。現在、両国関係に厳しい局面が表れている直接の原因は日本政府の違法な「島購入」であり、13億の中国人民の激しい憤りを引き起こしている。事態を放っておけば、両国の各分野の交流、協力がさらに大きな打撃をうけることは避けられない。日本側が実際行動をとり、間違ったやり方を直ちに改め、釣魚島問題を適切に処理し、中日関係の改善に確実に努力することを希望する。

― 日中関係をどのように構築するかを巡って、両国民、 特に若者に何か贈る言葉はありますか。

大使 中日両国の「和すれば共に利し、闘えば共に傷つく」は、2000年来の歴史で繰り返し証明されている道理である。前者は両国人民に非常に大きな利益をもたらし、それぞれの発展を促し、後者は中国に深く重い災難をもたらし、日本人民もその被害を深く受けた。両国の内外情勢が共に推移し、変化する中で、両国民衆、特に若者は歴史を真剣に学び、「歴史を鑑(かがみ)とし、未来に目を向ける」内容を深く理解し、中日関係の平和、友好、協力の大方向を常に堅持し、しっかりつかんでいなければならない。

#### 今年日中領土紛争経緯

中国では「最近の紛争を仕掛けてきたのは日本側で、対抗せざるを得ない」。3月前半、人民日報は「尖閣(中国名:釣魚島)問題は中国の核心利益」と主張する論評を載せ、その後、中国の海洋監視船が同海域を巡行した。

「日本政府は五つの面で釣魚島に対する実効支配を強化しようとしている」とし、その周辺地域への自衛隊増派、国内法による「侵入」外国船対処の法律整備、無名島の命名、教科書における主権明記の要求、地方議員の上陸など一連の行動は中国側に警戒感を高め、それに対抗するものとして中国側も「釣魚島防衛」戦略を調整している模様で、民間抗議船の出航を阻止し続ける一方、政府所有の船舶を出動して「当海域での主権執行」を示した。

4月16日(現地時間)に石原慎太郎・東京都知事は、訪米中にワシントンDCで講演した際、尖閣諸島(中国名釣魚島)中の主要3島を東京都の予算で購入すると表明した。その背景には、石原発言は中国を怒らせて国内政治に利用する狙いがあると見られる。直前にも川村名古屋市長の南京大虐殺否認発言を支持しており、一貫した反中国の立場から国交40周年という友好ムードを壊すため、政府の対応は弱腰と批判して野田政権に圧力を加えるため、日本のナショナリズムを扇動して支持率を高め「保守勢力による国政奪取」に環境整備するため、米国を日中の領土紛争に巻き込むためという。

4月22日から27日まで、「海上連携2012」と名付けられた中露両軍によるこれまで最大規模の合同軍事演習が日本や韓国に面する中国青島沖の海域で行われた。この時期に、日本のマスコミでは特に米国とフィリピン、米国とベトナムとの軍事演習が大きく紹介され、「中国を強く意識したもの」と強調されるが、前者には米軍が25人しか参加せず、フィリピン側を慰めるためのようなものだ。NHKはマニラの中国大使館前で「大規模な」抗議活動(実際は100人未満)があったと伝えるが、同じ時に米国大使館前でその5倍か10倍以上の民衆による「米軍帰れ」の抗議デモが行われたことは報じない。米越海難救助演習が行われた時、中国海軍の最新鋭戦艦もベトナムに滞在していた。ベトナムはせいぜい米中間のバランスを取っている姿勢で、すべて「中国けん制」と書きたてられるのはなぜであろう。

日本のマスコミは南シナ海の領有権問題ではほとんど中国と対立する側への一辺倒だ。

小池百合子さんは米国のウェブサイトで「中国は南シナ海と東シナ海で拡張し続け、軍事的緊張が高まっている」との論評を掲載したが、米国コーネル大学のアレン・カルソン準教授は「南シナ海で最も戦争をしたくない国があるとすればそれは中国だ」と言い、その根拠は中国の経済最優先戦略にあるとし、また、2002年の南シナ海行動基準が合意して以来「中国は直接にそれに違反したことはないと認めざるを得ない」とも書いた。この記事は、日本の一連の発言と行動は南シナ海で対立を煽ることにより中国の体力とエネルギーを消耗させ、周辺諸国を中国から遠ざけ、これによって東シナ海の争いで有利な立場を求めるとも分析している。

6月23日、上海で日中国交正常化記念シンポジウムが開かれ、唐家璇(前国務委員・現中日友好協会会長)報告のペーパーは中国のシドニー総領事館のHPには掲載したが、なぜか東京大使館にはない。唐氏は1972年の両国首脳会談で釣魚島問題に触れた経緯を詳しく説明した。「まず周総理が中ソ国境問題を説明していた。それを受けて田中首相から『尖閣問題をどう考えるか』との質問があった。それに対し周は『這個問題可以暫時放一放』(当面、この問題を取り上げなくてよい)と答えた」、という。趙啓正氏も、90年代に二階堂進(72年訪中時の官房長官)が上海に来た際に自分に語った「田中、大平、二階堂、周、姫(鵬飛)の5人密談で釣魚島問題の棚上げに合意した」話を披露した(詳しい記録があり、1997年2月

号『浦東開発』誌の記事でも再度言及)。二人の発言から、中国首脳部は「棚上げ論」を堅持し、日本側が「ゲームルールを変えてきた」ことをけん制する姿勢が読み取れた。現場に多くの日本人記者はその話を聞いていたが、どこも取り上げず、解説しなかったのは残念だ。「来年3月までの日中関係を悲観視している」という唐氏の発言だった。尖閣の3島の借り上げ契約が期限を迎えることを念頭にした発言もあった。『世界』誌8月号に掲載された論文「尖閣購入問題の陥穽」は、米軍の射爆撃場に提供された島嶼名は「黄尾嶼」「赤尾嶼」となっており、「久場島」「大正島」ではなかったことを披露したことも興味深い。同論文は米国の「あいまい」戦略を分析しているが、北京では「用老三搞垮老二中日互掐釣魚島美國偷樂」として米国の楔戦略を疑っている。

9月10日に日本政府が魚釣り島他三つの島の国有化を閣議決定した後、中国からは「予想を超える」(野田首相の言葉)猛反発と「反制措置」を繰り出した。

中国側はなぜ怒ったのか、その背後にもっと深刻な事態があったからだ。9月末、唐家璇(元外相)が日本側に対し、胡錦濤主席がAPEC会場で野田首相に国有化を思い直すよう申し入れた直後に閣議決定があったことで「メンツがつぶされた」と伝えられた。

胡錦濤主席は「自分はここ10年、日中改善に尽力してきた」自負があり、APECで「最後の努力を自らしよう」と決めた。直前に韓国側は野田首相の竹島をめぐる親書の受け取りを拒否したが、中国側は野田首相の親書を受け取った。日韓首脳がAPECで会わないのは決まっていたが、北京からの提案で胡・野田「立ち話会談」が急きょ設定された。しかし胡錦濤の申し入れの翌日に国有化の閣議決定が行われた。これで、ただ一人の首脳のメンツが潰された程度ではなく、この10年間進められた「胡錦濤の対日宥和路線」が中国指導部内で否定されたという重大な意味をもつかもしれない。

胡錦濤主席は就任直後からそれまでの対日政策を軌道修正し、「対日新思考」を主張して袋叩きにされた数人の学者を中南海に呼び、改善意見を聞いた。08年、福田首相との共同宣言、東シナ海ガス田の共同開発合意にこぎつけたのがその努力のピークだった。直後に日本外相(当時)が春暁について「日中の共同開発」(合意は中国の開発に日本側が出資)を強調して当日、中国外交部の批判を受けた。福田首相の早期退任もあり、中国国内の主権重視派が反転攻勢をかけ、年末に海洋監視船を釣魚島に出動した。2010年の衝突事件を経て中国首脳部内の対日重視派が明らかに後退し、今回の「国有化」で形勢は完全に変わった。

この背景が分かれば、「国有化」後、9人の政治局常務委員のうち8人が対日批判し、釣魚島周辺への「反制措置」を矢継ぎ早に出したことの解釈は付く。日本政府が「領土問題が存在しない」と言えば言うほど、中国側はこれら一連の措置をもって「領土問題が存在する」ことを日本また国際社会に主張していくスパイラルに入った。

中国側は、①島の主権紛争と棚上げ論を認めて問題を凍結するという「低いレベルの均衡」にするか、②日本が行使している実効支配と同等のレベルまで中国もプレゼンスを高めるという「高いレベルの均衡」(という両睨みの作戦を展開しているように見られる。

日本側は中国国内の社会混乱、権力闘争、経済衰退を過大評価して「冷却期間を置く」駝鳥政策を今後もとっていくのか。時間を無駄にすれば、決断力のなさと個人リスク回避によって失うものがはるかに多いように思えてしまう。

(以上朱建栄氏の「参考消息」からの摘要)

在日華人女性交流会会誌第30期 編集担当:程強·李藝 デザイン・レイアウト:于 江洪